

2011 年度日本気象学会秋季大会スペシャルセッション
「東アジアモンスーンと黒潮 —中緯度大気海洋相互作用の再発見へ向けて—」
のご案内

来る 11 月 16~18 日に名古屋大学（名古屋市千種区）で開催される気象学会秋季大会にて、「東アジアモンスーンと黒潮 —中緯度大気海洋相互作用の再発見へ向けて—」と題するスペシャルセッションが設けられます。皆さん奮って講演申込をお願いします。オンライン申込は **8 月 2 日**が締切です。

趣旨：

四方を海に囲まれた日本の気候環境とそれに根ざした日本各地の風土と文化。四季は極めて鮮明で、それが美しい日本の自然を作っている。一方では豪雨豪雪そして猛暑冷夏などの激しい気象もその特徴である。なぜ日本周辺において深刻な災害をもたらす程に激しい気象現象がおこるのだろうか。大規模スケールにおいては冬季東アジアモンスーン・梅雨と黒潮が交差する日本近海では活発な大気海洋相互作用が生じており、これまでに考えられてきた以上に気象擾乱活動に対して重要な役割を果たしている可能性が高い。数値モデルの高分解能化、衛星リモートセンシングの精密化、船舶・ブイ・Argo フロートなどの海洋観測技術の高度化によって、大気海洋相互作用研究に更なるブレイクスルーがもたらされる機会が間近に迫っている。本セッションでは、観測研究から、データ解析、数値シミュレーションに至る様々な手法に基づいた研究を気象ならびに海洋研究者から話題提供して頂きたい。スケールも、中小規模現象から大気大循環まで、そしてその長期変動まで、中緯度の大気海洋相互作用が関連するあらゆる現象を対象とする。討論を通して、中緯度大気海洋相互作用の新たなパラダイムの構築の一助にしたい。発見的要素も含め、予備的な研究報告や観測速報でも構わない。大学院生などの若手の発表も歓迎する。TOGA-COARE で生まれた気象・海洋研究者の研究交流を、また別の形で再開する意味でも、海洋研究者の積極的な申し込みも期待したい。

世話人：

立花義裕（三重大学大学院生物資源学研究科；新学術領域 A01-2 班代表）

川村隆一（富山大学大学院理工学研究部；新学術領域 A02-4 班代表）